

さか
坂
おき
沖
ひら
平
ノ
した
下
まえ
前
地
地
区
区
区
区



平成7年度市内遺跡発掘調査事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1996. 3

宮崎県小林市教育委員会

序

小林市は、宮崎県の南西部、霧島火山の麓にあり、古くは日向国十六駅の一つである夷守駅の所在地に比定されるなど、歴史と伝説を残す町です。現在は花と星空と湧水の美しい田園観光都市として発展を続けています。

当市では、年々増加する開発事業から文化財を保護するため、文化庁、県教育委員会の補助を受け、今年度は市内3か所の試掘調査を実施しました。その結果、沖地区では柱穴と土師器片が発見されました。

本書の刊行を機に、皆様の埋蔵文化財に対する一層のご理解をいただければ幸いです。

最後に、調査にあたり、ご指導、ご協力いただきました宮崎県文化課の方々をはじめ、踏査、試掘等に快くご協力くださいました地元の方々、また調査、整理作業に従事くださいました皆様に対して厚くお礼申し上げます。

平成8年3月

小林市教育委員会

教育長 瀬戸口 克彦

例　　言

1. 本書は、小林市教育委員会が平成7年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 本年度は、坂下地区、沖地区、平ノ前地区の試掘調査を実施した。
3. 調査の組織は次のとおりである。

調査主体 小林市教育委員会

教　育　長　瀬戸口　克彦
社会教育課長　谷　山　己知雄
社会教育係長　原　口　勝年
主　事　坊　蘭　諭子
調　査　員　中　村　真由美
調査補助員

整理作業員

調査指導 宮崎県文化課

主　　査　谷　口　武　範

4. 本書に使用した図面の作成については、中村真由美が担当した。
5. 現場の写真撮影は中村が担当した。
6. 本書の執筆、編集は中村が担当した。
7. 土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の新版標準土色帖による。
方位は磁北である。また、レベルは海拔絶対高である。
8. 出土した遺物は中央公民館で保管している。

目 次

○序	1
○例 言	2
○目 次	3
○第1章 はじめに	4
1. はじめに	4
2. 小林市の地理的、歴史的環境	5
○第2章 調査の記録	7
1. 坂下地区	7
(1) 位置と環境	7
(2) 調査に至る契機	7
(3) 調査の概要	7
2. 沖地区	8
(1) 位置と環境	8
(2) 調査に至る契機	8
(3) 調査の概要	8
(4) まとめ	9
3. 平ノ前地区	11
(1) 位置と環境	11
(2) 調査に至る契機	11
(3) 調査の概要	11

挿図目次

○第1図 市内遺跡発掘調査地点位置図	4
○第2図 坂下地区発掘調査地点位置図	7
○第3図 坂下地区基本層序	7
○第4図 沖地区発掘調査地点位置図	8
○第5図 沖地区トレンチ位置図	9
○第6図 沖地区基本層序	10
○第7図 平ノ前地区発掘調査地点位置図	11
○第8図 平ノ前地区基本層序	11
○表1 報告書抄録	15

図版目次

○図版1 坂下地区遠景	12
○図版2 坂下地区試掘状況	12
○図版3 沖地区遠景	13
○図版4 沖地区試掘状況	13
○図版5 平ノ前地区遠景	14
○図版6 平ノ前地区試掘状況	14

第1章 はじめに

1. はじめに

小林市は、宮崎県の南西部に位置し、人口はおよそ4万1千人である。浜ノ瀬川上流の三之宮渓谷、コスモスの咲き乱れる生駒高原など豊かな自然に恵まれ、県内有数の観光地として知られている。しかし、近年観光客数が減少しており、これを解消し、集客増加に向けて交通網、施設等の整備、開発が進められている。また、圃場整備や畠地灌漑整備事業などの農業基盤の整備も進められている。

これらの諸開発事業と埋蔵文化財の保護との調整に資するため、本年度は下記の3か所で発掘調査を実施した。



第1図 市内遺跡発掘調査地点位置図

1. 坂下地区 2. 沖地区 3. 平ノ前地区

0 1 2 3 (km)

2. 小林市の地理的・歴史的環境

○地理的環境

小林盆地は、北を四万十層群からなる裏日向山地、西を加久藤溶結凝灰岩からなる溶灰岩台地に、また南を霧島火山群によつて囲まれている。地形は、北部の四万十層群を基盤とする扇状地と、南部の火山の溶岩流末端から形成された新旧の扇状地、および海拔200m前後のシラス台地とからなり、盆地底の大部分はシラス台地とそれが侵食されて形成された段丘からなり、最低位に氾濫原性低地がかなり発達している。

河川は、盆地内を石水川などの小河川が流れ、合流して大淀川の支流岩瀬川となつて東流し、西部では川内川支流の池島川が西流する。また、市内には湧水も多く、約50ヶ所点在する。¹⁾

○歴史的環境

小林市内の遺跡は、平成4、5年度実施の市内遺跡詳細分布調査では163ヶ所確認されている。²⁾

次に、これまで調査・報告されている遺跡について、時代別に概略を挙げる。

旧石器時代の遺跡は、横峰迫（大字南西方字横峰迫）で黒曜石製の打製石器が採集されている。³⁾

縄文時代の遺跡は、本田遺跡⁴⁾（大字東方字坂ノ下）、山中前遺跡⁵⁾（大字細野字山中前）、鬼塚遺跡⁶⁾（大字南西方字鬼塚）、こまくりげ遺跡⁷⁾（大字細野字出の山）などがある。なかでも本田遺跡は、前期の住居としては県内唯一であり、県指定を受けている。

弥生時代の遺跡調査例としては、鬼塚ヒレ原遺跡⁸⁾（大字南西方ヒレ原）の掘立柱建物跡がある。そのほか東方、永久津、南西方で石包丁が出土しており、また、小林小学校所蔵の重弧文土器片が知られている。

古墳時代の遺跡例は、地下式横穴墓が東二原⁹⁾（大字真方字東二原）、下の平¹⁰⁾（大字水流追字下の平）、新田場¹¹⁾（大字真方字新田場）、尾中原¹²⁾（大字北西方字尾中原）等で確認されている。また、水落¹³⁾（大字細野字水落）、平木場遺跡¹⁴⁾（大字南西方字平木場）では住居跡が調査されている。

歴史時代では、日向国16駅の一つ、夷守駅所在地が大字細野字夷守に比定されている。¹⁵⁾平安時代の遺跡としては、竹山遺跡¹⁶⁾（大字細野字竹山）、こまくりげ遺跡から布痕土器などが出土している。中世の山城では、三山城（大字細野字城山）、小林城（大字真方字下の馬場）、内木場城（大字東方字内木場）、野首城（大

字東方字野首)、岩牛札城(大字東方字城ヶ迫)などがあり、古石塔群が穂屋下(大字真方字穂屋下)、大久津(大字東方字大久津)、下り(大字東方字下り)にある。近世では、水落遺跡で江戸時代の墓が検出されている。

〈参考文献〉

- 1) 経済企画庁総合開発局「土地分類図(宮崎県)」1974
- 2) 中村真由美「市内遺跡詳細分布調査報告書」「小林市文化財調査報告書」第7集 小林市教育委員会 1994
- 3) 2) と同じ
- 4) 鈴木重治「本田遺跡」「宮崎県史 資料編 考古1」宮崎県 1989
- 5) 石川恒太郎「中山ノ前住居跡」「宮崎県の考古学」吉川弘文館 1968
※報告には「中山ノ前」とあるが、実際の字名は「山中前」であり、本書では後者を用いた。
- 6) 中村真由美「鬼塚遺跡」「小林市文化財調査報告書」第3集 小林市教育委員会 1991
- 7) 田中 茂「こまくりけ遺跡」「九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告」(1)宮崎県教育委員会 1973
- 8) 中村真由美「鬼塚ヒレ原遺跡」「小林市文化財調査報告書」第4集小林市教育委員会 1992
- 9) 永友良典・長友郁子・西高哲郎「東二原地下式横穴墓群・下の平地下式横穴墓群」「小林市文化財調査報告書」第6集 小林市教育委員会 1993
- 10) 9) と同じ
- 11) 西高哲郎・長津宗重「新田場地下式横穴墓群」「宮崎県文化財調査報告書」第34集 宮崎県教育委員会 1991
- 12) 石川恒太郎「尾中原地下式古墳」「地下式古墳の研究」帝国地方行政学会 1973
- 13) 長津宗重・長友郁子「水落遺跡」「小林市文化財調査報告書」第1集 小林市教育委員会 1990
- 14) 安楽 勉「平木場遺跡」「九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告」(1)宮崎県教育委員会 1973
- 15) 藤岡謙二郎「日向国」「古代日本の交通路IV」大明堂 1979
- 16) 5) と同じ
- 17) 平部嶽南「日向地誌」 1884

第2章 調査の記録

1. 坂下地区（大字東方字坂下）

(1) 位置と環境

当地区は、市内北東部に位置し、市北境の裏日向産地から連なる丘陵を南流する浜の瀬川、谷の木川（大淀川支流）が侵食し、複雑な谷を形成している。

遺跡は、浜の瀬川、谷の木川沿岸のほとんどの台地上で確認されている。坂下地区は、市街より北東に約10km、浜の瀬川上流西岸の小丘陵上に立地する。

(2) 調査に至る契機

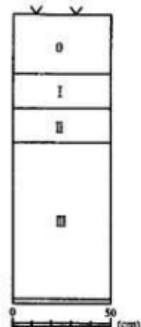
株式会社丸山工務店より、産業廃棄物安定型最終処分場建設設計画に伴う遺跡の有無についての照会があった。当地区は、分布調査では遺物の散布は確認されていなかったが、県指定史跡本田遺跡から約500mと近いため、市教育委員会はこれを受け、遺跡の有無、範囲、性格等を確認するため、試掘調査を実施した。

(3) 調査の概要

調査期間は平成7年7月25・26日の2日間で、事業予定地内に3×6～8mのトレチを3か所を設定した。現場は南向きの傾斜地である。試掘の結果、土層の残存状態は良好であったが、遺構、遺物ともに確認できなかった。



第2図 坂下地区発掘調査地点位置図



第0層：表土
第I層：黒色土層
(Hue10YR1.7/1 黒ボク層)
第II層：暗褐色層
(Hue10YR3/3)
第III層：褐色土層
(Hue10YR4/6 アカホヤ層)
第IV層：黒色土層
(Hue7.5YR2/1 カシワバン層)

第3図 坂下地区基本層序

2. 沖地区（大字細野字沖）

(1) 位置と環境

当地区は、市内南部に位置し、霧島連山北東面に広がる扇状地と辻の堂川、洗出川（大淀川支流）などの小河川が東流する平野部からなる。また地区東部高原町境には湧水千谷池がある。

遺跡は、千谷池周辺の台地、辻の堂川沿岸の小丘陵、および標高200~400mの扇状地で数多く確認されている。

沖地区は、市街より南東に約2km、辻の堂川西岸河畔に立地する。

(2) 調査に至る契機

市管財課より、下水処理センター建設計画に伴う遺跡の有無についての照会があった。当地区は分布調査では遺物の散布は確認されなかつたが、辻の堂川対岸の永田平丘陵南縁に弥生土器片、土師器片が多量に出土しているため、市教育委員会はこれを受け、遺跡の有無、範囲、性格等を確認するため、試掘調査を実施した。

(3) 調査の概要

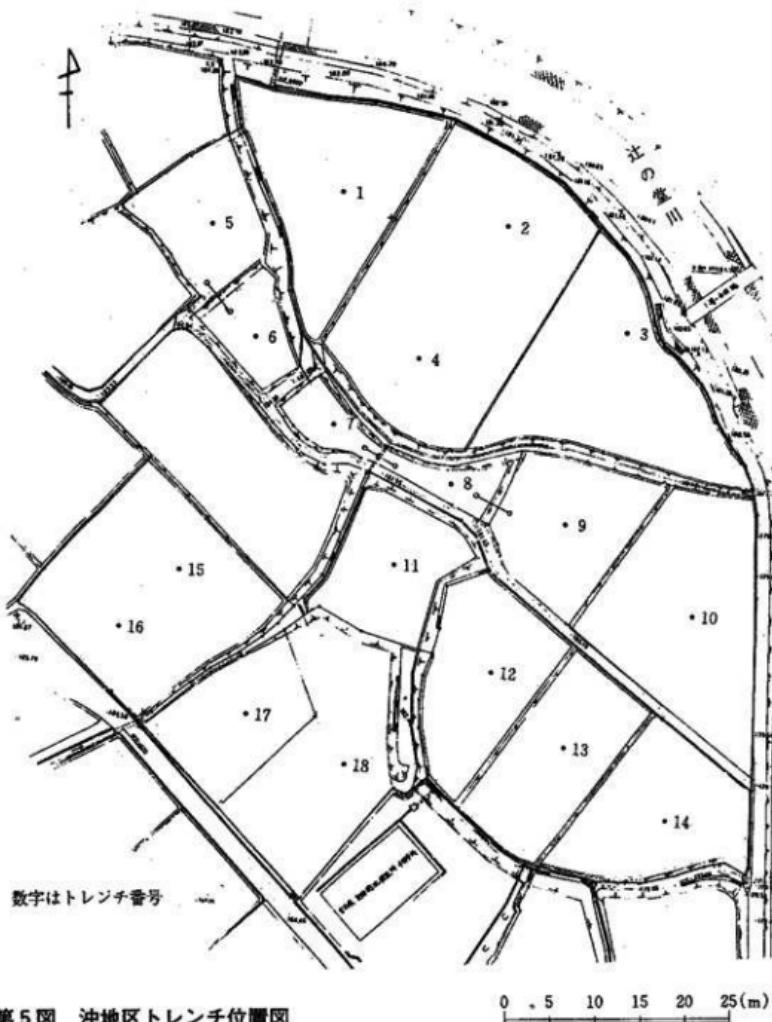
調査期間は平成7年12月18日の1日間で、事業予定地内に $1.5 \times 2 \sim 3$ mのトレンチを18か所設定した。現場は水田である。試掘の結果、5, 6, 16トレンチ黒ボク土層から土師器片等が数点出土した。また15トレンチではアカホヤ面より直径約20cmの柱穴が6基検出された。その他のトレンチでは河川改修に伴う搅乱を受けており、遺物、遺構ともに確認できなかつた。



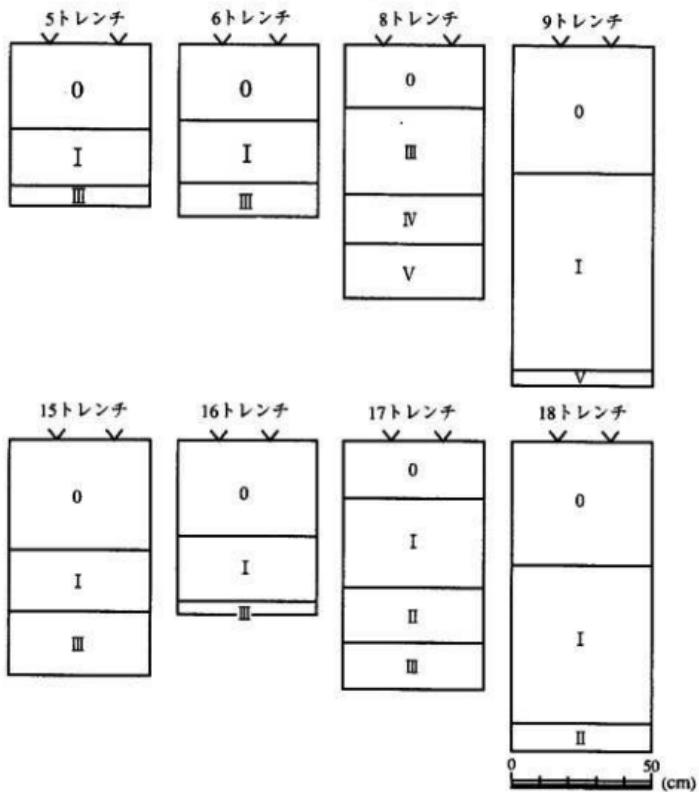
第4図 沖地区発掘調査地点位置図

(4) まとめ

今回の調査では、柱穴 6 基、土師器片数点を発見することができた。しかし、遺物、遺構とも少なく、遺跡の密度は薄いものと考えられる。



第5図 沖地区トレンチ位置図



1 ~ 4 , 7 , 10~14 トレンチ : 川砂利による搅乱

第0層：耕作土

第I層：黒色土層 (Hue10YR1.7/1 黒ボク層)

第II層：黒褐色土層 (Hue10YR3/3)

第III層：明褐色土層 (Hue7.5YR5/8 アカホヤ層)

第IV層：黒褐色土層 (Hue7.5YR3/2)

第V層：川砂利土

第6図 沖地区基本層序

3. 平ノ前地区（大字細野字平ノ前）

(1) 位置と環境

当地区は、市内南部に位置し、霧島連山北東面に広がる扇状地と辻の堂川、洗出川（大淀川支流）などの小河川が東流する平野部からなる。また地区東部高原町境には湧水千谷池がある。

遺跡は、千谷池周辺の台地、辻の堂川沿岸の小丘陵、および標高200～400mの扇状地で数多く確認されている。

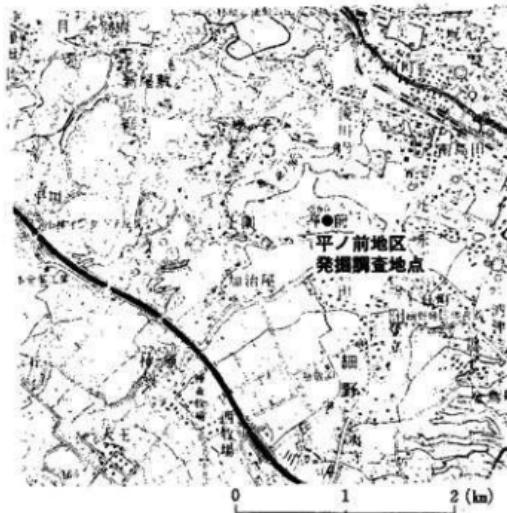
平ノ前地区は、市街より南東に約1.3km、小丘陵上に立地する。

(2) 調査に至る契機

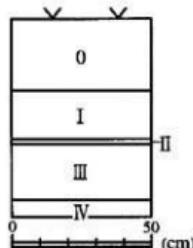
株式会社デジタルツーカー九州より、携帯電話基地局の鉄塔建設に伴う遺跡の有無について照会があった。当地は、踏査では遺物の散布は確認されなかつたが、周辺の水田、畑地では縄文時代の遺物が採集されているため、市教育委員会はこれを受け、遺跡の有無、範囲、性格等を確認するため、試掘調査を実施した。

(3) 調査の概要

調査期間は平成8年2月25・26日の2日間で、事業予定地内に1×1～2mのトレンチを4か所設定した。現場は山林である。試掘調査の結果、全てアカホヤ下層まで搅乱を受けており、遺構、遺物ともに確認できなかつた。



第7図 平ノ前地区発掘調査地点位置図



第0層：表土
第1層：褐色土層
(Hue10YR4/6 二次アカホヤ層)
第II層：明褐色土層
(Hue7.5YR5/8 アカホヤ層)
第III層：黒色土層
(Hue7.2YR2/1 カシワバン層)
第IV層：暗褐色土層
(Hue10YR3/3)

第8図 平ノ前地区基本層序

図版



図版1 坂下地区遠景（東から）



図版2 坂下地区試掘状況（3トレンチ北壁）



図版3 沖地区遠景（西から）



図版4 沖地区試掘状況（15トレンチ北から）



図版5 平ノ前地区遠景（南から）



図版6 平ノ前地区試掘状況（2トレンチ東壁）

報告書抄録

ふりがな	さかしたちく おきちく ひらのまえちく
書名	坂下地区 沖地区 平ノ前地区
副書名	—
卷次	—
シリーズ名	小林市文化財調査報告書
シリーズ番号	第9集
編著者名	中村 真由美
編集機関	小林市教育委員会
所在地	〒886 宮崎県小林市大字細野300番地 TEL 0984 (23) 1111
発行年月日	西暦1996年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
沖遺跡	小林市大字細野 字沖2413番地	45205	—	—	—	平成7年 12月18日	75	下水処理 センター

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沖遺跡	集落跡	古墳時代 近世	柱穴 6基	土師器片 陶磁器片	なし

小林市文化財調査報告書第9集
坂下地区・沖地区・平ノ前地区
平成7年度市内遺跡発掘調査報告書
発行：宮崎県小林市教育委員会
〒886 宮崎県小林市大字細野300番地
☎(0984)22-7912
印刷：(有)金子印刷所

